

生徒達を企業に送り出し続けていま

話し手・原 和久さん(教員)

「手話ブーム」の裏面で聴覚に障害のある人々の労働や生活は、あまりよく伝わってきません。それは聴覚障害者たちが早くから権利意識に目覚め、手話通訳を制度として確立することにより、逆に手話をよく知らない地域の人々との直接のコミュニケーションが減ってきたことにもよるのかもしれませんが。長年、聾学校高等部で進路指導に関わってきた原さんから聴覚障害者の就労生活についてお聞きします。



写真は、新越谷駅頭での「克己絵日記販売」。聾啞、弱視、車椅子の橋本画伯が、自作の本を、自ら駅頭で販売している。

第14回共に働くまちを拓くベンきょう 会

7月26日(木) 6時半～ 越谷市中央市民会館5階

資料代・200円 障害者の職場参加を考える会 048-733-2743